



# 消防団たずね歩き

## 頑張る兵庫第5分団

兵庫消防団は、ただ今、来年の兵庫県消防操法大会に向け、一丸となり特訓中です。また、神戸市消防団小型動力ポンプ操法大会においては優勝3回と常に上位の成績を収めており、各分団でも、日頃から小型動力ポンプの点検はもちろん、各防災福祉コミュニティ、自治会、学校関係、企業等に対し、放水訓練、消火器の取り扱い、津波避難訓練そして、消防団員救急インストラクターを通じ、AEDを用いた心肺蘇生講習、ケガの手当て等の講習会をおこない指導しています。

特に地元中学校に対しては、毎年1年生を対象に防災学習の一環として、各講習会をおこない、防災ジュニアチームとして地元でも活躍していただいています。

私が初めて、消防団員の救急インストラクターとして講習会を開催したのは、阪神・淡路大震災の次の年で、当初は、人前で教えることにも慣れておらず苦勞しましたが、現在では、演技を用いた救命活動デモンストラクションが話題にもなり、教える楽しさを実感し、楽しい講習会を開催しております。

そして、忘れていけないのが、阪神・淡路大震災の時、「なにもできなかった」という教訓です。兵庫第5分団では、団員が率先し、

それぞれ専門知識を学び、市民救命士の講義の向上、小型動力ポンプ操法訓練、救急患者の搬送、消火器、ロープ結束、規律訓練、各個訓練、現場指揮所訓練等に各リーダーを決め、月に一度練習をおこなっています。

また、昨年、当分団員4人と共に東日本大震災の一周忌慰霊祭に被災地へ行き、大川小学校の悲劇の現場を始め、石巻市、名取市で、津波の恐ろしさを自分自身の肌で感じてきました。視察途中、地元の被災者の方に「観光気分で、来てもらっては、困る」とお叱りも受けましたが、同じ大震災を経験している神戸から来たこと、また、消防団員として、今後の教訓として生かしていきたいこと、そして、お亡くなりになられた方へのお悔みと、地元の消防団がどのような思いで避難活動をしていたかなど、この目で見たかったことを説明すると、快く理解していただき、最後は「ありがとう」と言っていただき、胸が張り裂ける思いで帰ってきたことを、昨日のここのように思い出します。今度もこの経験を生かし、消防団活動に取り組んでいきたいと思います。

(兵庫第5分団 分団長 山崎基治)



**地域に根付いた消防団を目ざしています!**

～地域住民の安全・安心を確保するために～



神戸市消防局  
神戸市消防団

